

釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

お ん ね な い

月刊 温根内 通信

———— 2025年2月号 No.341

2月15日(土)発行 ————

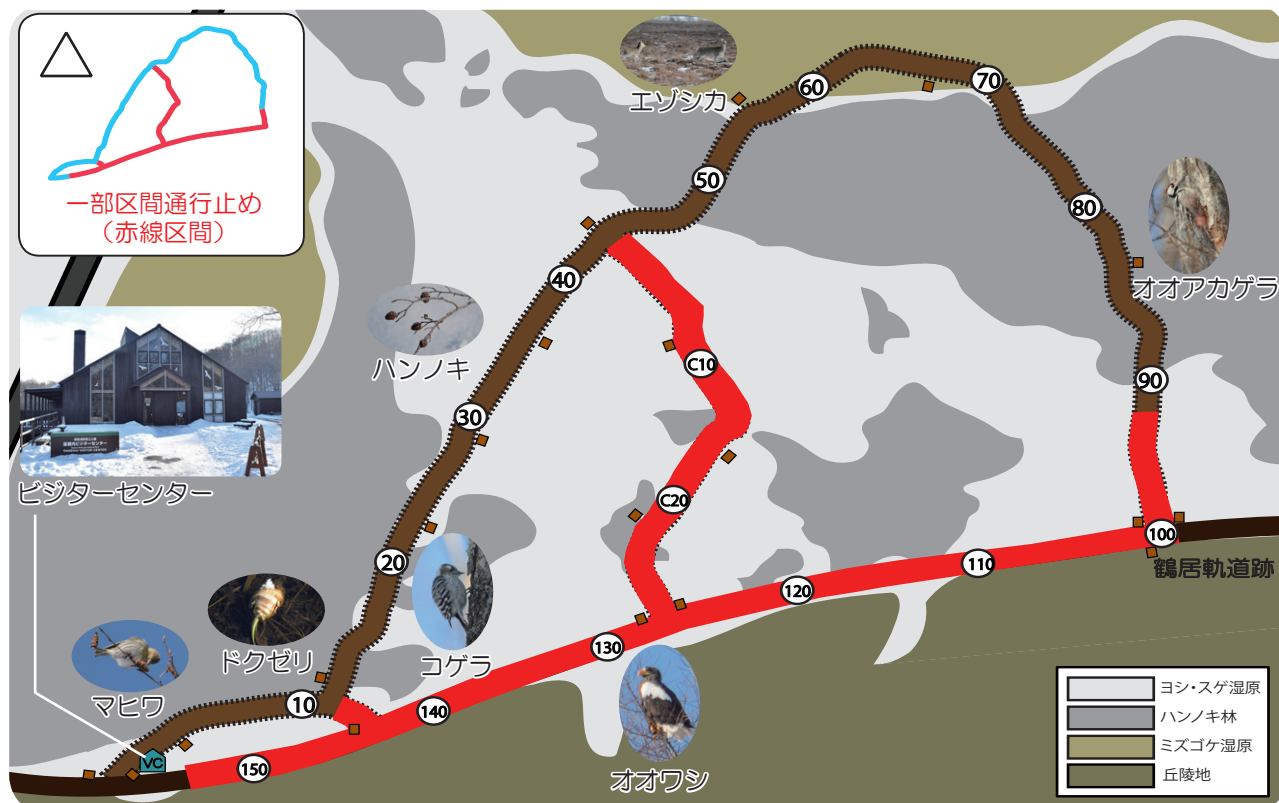


じっと耐えて

2月に入り、野鳥の囀りがそこかしこで聞こえてくるようになりました。

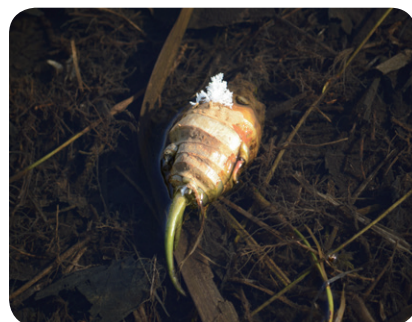
ある日、ストーブ用の薪の隙間に何かがいました。茶色い翅に白い“L”の文字。タテハチョウの仲間、エルタテハです。蝶の仲間には本種のように成虫のまま越冬する種があり、このように時には人工物の隙間で見つかることがあります。「生きてるかな？」と思い優しく触ってみると、わずかに脚が動きました…

☆☆☆ 温根内木道周辺で見られた自然（1/15～2/14） ☆☆☆



【シラカンバの実】 カバノキ科 白樺

積もった雪の上に昨年豊作だったシラカンバの実がたくさん落ちていました。ばらばらにすると、翼（よく）と呼ばれる膜を持った種子と、「果鱗（かりん）」と呼ばれるものに分れます。果鱗は面白い形をしており、鳥が羽ばたいているように見えます。



【ドクゼリの根茎】

セリ科 毒芹
湿原の水辺に浮かんでいます。ショウガやワサビのようにも見えますが、もちろん有毒ですので注意。



【マヒワ】 漂鳥
アトリ科 真鶺鴒

この日はシラカンバの実をついばんでいました。今シーズンは継続的に温根内では確認できています。



【オオアカゲラ】 留鳥
キツツキ科 大赤啄木鳥

アカゲラより一回り大きく、木を突く音も豪快です。縄張りを示す、「ドラミング」も聞こえてきました。



【コゲラ】 留鳥
キツツキ科 小啄木鳥

他のカラ類と行動をとともにしています。「ギィ〜」という鳴き声が聞こえたら注目してみましょう。

○温根内木道周辺で観察された鳥（1/15～2/14）

この時期にしては比較的气温が高めに感じる釧路地方。留鳥の囀りが聞こえ始め、季節が春に向かっていくことを実感します。湿原ではタンチョウの鳴き交わしがよく聞かれるようになりました。今でも時折、オジロワシやオオワシが見られています。ビジターセンターでは双眼鏡を無料で貸し出しております。お気軽にお声がけください。

鳥（和名は日本鳥類目録第8版の順）		6	ノスリ	12	ヒガラ	18	ゴジュウカラ
1	タンチョウ	7	コゲラ	13	ハシブトガラ	19	キバシリ
2	ダイサギ	8	アカゲラ	14	シジュウカラ	20	ツグミ
3	トビ	9	オオアカゲラ	15	ヒヨドリ	21	ベニマシコ
4	オオワシ	10	ハシボソガラス	16	エナガ	22	マヒワ
5	オジロワシ	11	ハシブトガラス	17	ミソサザイ		

☆☆☆☆ 世界湿地の日記念 冬のエコツアーを開催しました ☆☆☆☆

2月2日は「世界湿地の日（World Wetlands Day）」だということを知っていますか？

ラムサール条約が1971年の2月2日に採択されたことを記念し、世界中の人々に湿地への関心を持ってもらい、その大切さを知ってもらうために1996年にラムサール条約事務局が定めた日です。毎年この日を中心に、湿地やそこに生息・生育する生き物について学び、楽しむイベントが各地で開催されています。温根内でも、この日を記念して釧路国際ウェットランドセンターが主催となり、2月1日に一般市民を対象にした散策会を行いました。タンチョウが釧路湿原で再発見されてから100年という節目もあり、この日は「タンチョウと湿地の関係」をテーマのひとつに掲げて、遊歩道を歩きました。

温根内周辺にもタンチョウが複数羽生息しており、冬期も人間の給餌に頼らず生活していると思われる個体があります。これらのタンチョウは冬、何を食べているのでしょうか？ そのカギは「湧き水」。地下を通ってくる湧き水は冬場でも凍ることはなく、そこにはタンチョウの餌となる様々な生き物が生息しています。この、冬でも凍らない湧き水があるからこそ、タンチョウは餌の獲得が難しい冬の時期でも生き延びることができました。

この日の散策では、タンチョウの痕跡を探して温根内の遊歩道を歩いてみました。しばらく歩くと、遊歩道の真ん中に見慣れない大きな糞が。大きさからしてこれは紛れもなくタンチョウの糞。さらにその横にはタンチョウに特徴的な足跡も見られ、丘陵地からしみ出してくる湧き水のあたりをウロウロしながら餌を探っていることが窺えました。その湧き水が集まる沢に下りて川底の砂利ごと網で掬ってみると、泥の中にヨコエビの仲間やヤゴを見つけることがで



遠くにタンチョウを発見！



木道に落ちていたタンチョウの糞を観察

き、こうした生き物を採ってタンチョウが生活していることがよくわかりました。さらにこの日は、運よくタンチョウのつがいを見ることができ、タンチョウの生息地としてこういった環境が重要であることを参加者の方々も納得してもらえた様子でした。（引率：温根内 VC 藤原伸也）

☆☆☆☆ 自然ふれあい行事を開催しました ☆☆☆☆

○「湿原アニマルトラッキング」1月19日 参加者：16名 講師：貞國利夫（釧路市立博物館）

爽やかな晴天となったこの日、湿原周辺に生息する動物たちが残した痕跡をたどり、彼らの生態を覗くイベントを行いました。講師の貞國氏から館内で簡単なレクチャーをしてもらった後、屋外に出てさっそく痕跡探し。ビジターセンターの裏にはイイズナと思しき足跡が早くも見つかり、講師の解説に参加者は興奮していました。さらにその後、湿原をちょろちょろと動くネズミが見られ、しばらく遠目で観察ができました。この珍しい展開は講師も驚いていました。その後もエゾリス、エゾシカ、タンチョウ、



キタキツネなどの足跡が見つかり、それぞれの特徴や生態もわかりやすく解説していただきました。終盤には雪上に点々と続く謎の血痕が見つかり、全員でしばらく考察。講師の考えたストーリーは、キツネか何かが獲物を喰えて持って行く際にその獲物から滴った血では？というものでした。痕跡だけからいろいろなことがわかる、貴重な体験をさせていただきました。



☆☆☆ 無料レンタル開始！「スノーハイク」も導入しました！ ☆☆☆

2月6日から歩くスキーとスノーシューの無料レンタルを開始しました！楽しみにされていた方、お待たせしました。そして今年は新たに、「スノーハイク」を導入しました。このスノーハイクは、スキー板の裏にシールと呼ばれる逆方向に強力な滑り止めが効く素材が貼られており、滑走もできると同時に傾斜も登ることができる、まさに「歩くスキー



とスノーシューの両方の機能を備えたスキー」。長靴のまま装着でき、靴を履き替える必要もありません。（ただし、スノーハイクはサイズ的に中学生以上が対象となります。）もちろん、従来の歩くスキー・スノーシューも存分に楽しんでください。レンタルご希望の方は、館内職員に気軽に声がけください。



☆☆☆☆ 餅つき大会が行われました ☆☆☆☆

1月18日、ボランティアレンジャーの会主催の新春恒例、餅つき大会が温根内で行われました。今年も温根内は餅をつく音と掛け声で元気に始まりました。今年も皆様にとってよい1年でありますように。大変お疲れ様でした！



☆☆☆☆ イベントのご案内（3月）事前の申し込みが必要です ☆☆☆☆

申し込みは開催日の1か月前から受け付けています

○ 自然ふれあい行事 ⇒お申し込み☎0154-65-2323

♪ 温根内の歴史を探訪しよう

〔日時〕3月16日（日）10：00～12：00

〔定員〕15名（小学生は保護者同伴）〔参加費〕無料〔場所〕温根内ビジターセンター
野外を散策しつつ、過去の貴重な写真などから温根内周辺の現在までの歩みを紐解きます。



○ 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）⇒お申し込み☎015-487-3003

♪ 晩冬の塘路湖の氷上を歩こう

〔日時〕3月1日（土）10：00～12：00〔定員〕10名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕無料〔場所〕塘路湖エコミュージアムセンター

～全線開通はもうすぐ～

今年度の木道改修工事はもうすぐ終了し、3月にはすべてのコースをご利用になれると思います。今しばらくお待ちください。



..... 月刊 温根内通信 No. 341

発行：釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

〒085-1145 北海道阿寒郡鶴居村字温根内

Tel：0154-65-2323 Fax：0154-65-2185

E-mail：ovc@kushiro-shitsugen-np.jp

ホームページ：http://www.kushiro-shitsugen-np.jp/

fFacebook： 温根内ビジターセンター フェイスブック

開館時間：9：00～16：00（4月～10月は17：00まで）

休館日：毎週火曜日（12/29～1/3は休館）入館無料

.....